

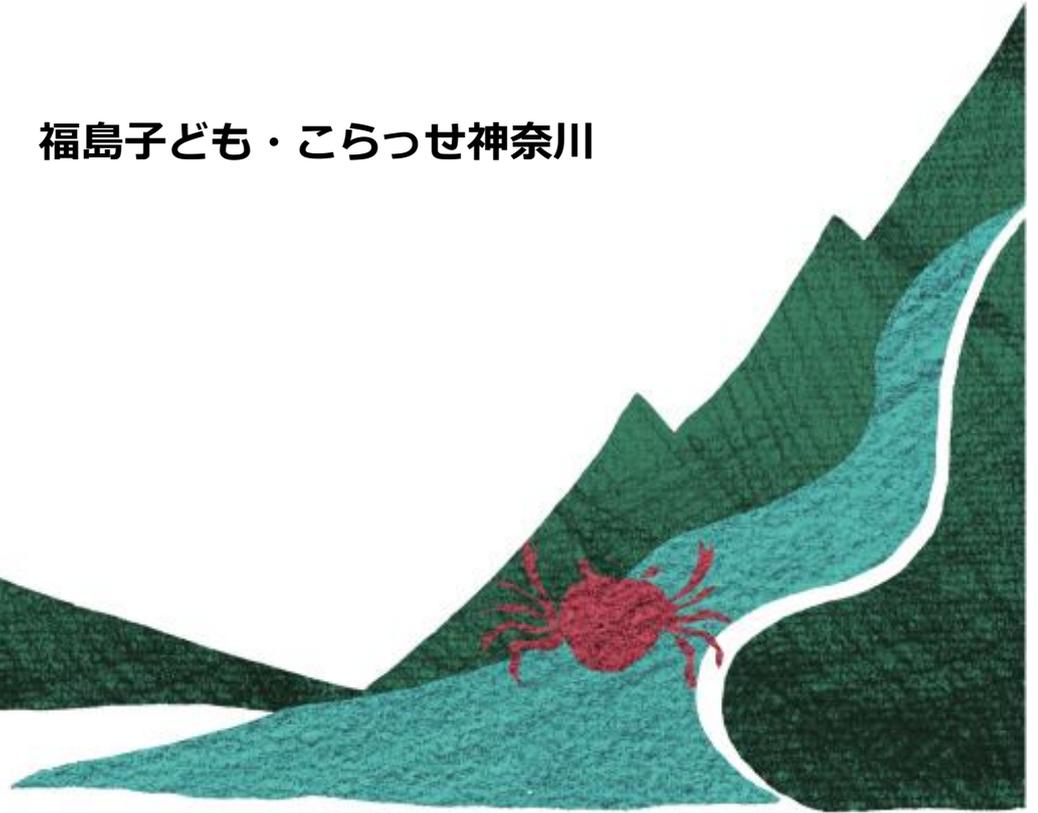


「神奈川リフレッシュプログラム」

2016 年報告書



福島子ども・こらっせ神奈川



後援

檜葉町 檜葉町教育委員会 山北町 山北町教育委員会
神奈川県 神奈川県教育委員会 (財) 神奈川県高等学校教育会館

謝辞

皆様のご支援ありがとうございました 第5回リフレッシュプログラム成功裏に終了しました

2011年3月11日の地震と津波による災害、加えての原子力災害は、現地の人々に災禍をもたらした様々のことを考えさせました。

私たち「福島子ども・こらっせ神奈川」は、そんな中でいろいろ思い、悩みながら福島に居住することを選択した小・中学生の支援が必要であると思い活動してきました。

国・福島県は、5年の経過の中で、地元への帰還を目指す復興の動きを強めています。帰還には、生活の保障、雇用の確保、生活環境の整備、まして生活する人々の健康、中でも子どもたちの健康は心配ないのかなどの条件整備が必要です。これらの問題で思い悩む方も多いと聞きます。そんな状況の中でその地に居住することになった子どもたちの健康を確保することは何より重要なことです。

今年の第5回目のプログラムを、福島県檜葉町、檜葉町教育委員会、神奈川県山北町、山北町教育委員会、神奈川県、神奈川県教育委員会、(財)神奈川県高等学校教育会館のご後援、多くの団体・市民の皆様のご支援の中で実施できました。ご支援・ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

今回は、小・中学生32人の参加を得て実施しました。参加者は、中学生が部活等の関係で3人となったこと、小学3年生13人、4年生6人と低年齢層が全体の過半数を超え、一人で泊まる経験がない子どもたちも多くいました。子どもたちとは、こらっせユースが主体的に活動し、運営を担ってくれました。山北・三保小学校の生徒さんと交流もできました。水遊びは地元教育委員会のご協力を得て安全で楽しいものとなりました。花火、バーベキュー、ゲーム等も行い、帰りには横浜散策もあり楽しい3日間を過ごしました。

移動教室につながる国の予算が措置されたこと、若い大学生の力も大きくなってきていること等力強い状況もあります。しかし福島の現況には帰還を巡り微妙な問題があること、事務局スタッフは歳を重ねていつまで続けられるのか、世間の関心が年々薄れてきていること等考えるべき問題もあります。私たちは、参加した子どもたちの嬉しそうな顔を思い出しつつ、これらの状況を勘案して、支援活動をどのような思いで始めたのかを原点に、今後どのようにして行くことが良いのかを考えてゆきたいと思っています。

皆様のご支援ご協力に感謝し実施報告と御礼とします。ありがとうございました。

福島子ども・こらっせ神奈川 代表 山際正道

プログラム

日 程 2016年8月3日(水)～5日(金)

場 所 山北町丹沢湖ロッヂ 山北町中川温泉丹沢荘

	午前	午後	夜
8月3日	いわき出発	オリエンテーション レクリエーション	BBQ キャンプファイヤー
8月4日	ウォークラリー	川遊び	花火大会
8月5日	横浜に移動	みなとみらい散策	いわき到着

8月3日（水）

朝、いわき駅に集合、特急ひたちに乗ります



小田原駅からバスに乗り換え丹沢湖ロッチに到着

オリエンテーション、
どんな2泊3日になるのかな



一緒に遊んだ
山北っ子たち

BBQ、お肉とピーマンが
すごくおいしかった！



山北町の湯川町長も

来ていただきました



キャンプファイヤーにワクワク

ゲームをしたり、歌ったりしてたのしかった



大学生がパーフェクト
ヒューマンを踊ります



8月4日(木)

みんなで朝食を食べました



ウォークラリー、
「POKE問GO」に出発!



あっちだよ、こっちだよといいながら
ゴールまで行きました。



昼食の後、
神奈川県広域水道
サービスからプレゼント



午後は川遊び、
大学生もびしょ濡れ!





スイカは甘くて美味しい



加藤先生は危険な場所を見守ってくれました



川で魚をつかまえたり、石を積んだり



やったあ！かん食したぞ

山北っ子とさようなら、
2日間楽しかったね



夕食の後は花火大会！
いろいろな色がでてきてとてもきれい



8月5日（金）

あっという間に最終日！
丹沢荘のみなさんにお礼のご挨拶



横浜までは
山北町のバスで移動

待ちに待った横浜！！
最初はみなとみらい技術館



宇宙や電気など色々なことを学べた

お昼を食べて、コスモワールド、
ショッピングへ



望遠鏡で横浜スタジアムを見たよ



めあてにしていた乗り物に
乗れてよかったなあ
-30℃の世界は息が
すごく白くなった



また神奈川に来てね



「さようなら」
いつまでも手を振ります



無事にいわき駅到着「ただいま！」

子どもたちの感想

福島っ子

(大学生と)お別れした時はすごく悲しくて泣いてしまったけれど、また来年いけばみんなとまた会えると思うので、また来年もこらっせにきたいなあ～って思います。

僕は川遊びやウォークラリー等、この3日間で沢山のことを経験しました。初めてのことでばかりで全てが大切な思い出です。この思い出ができたのもスタッフさん達のおかげです。本当にありがとうございました。

3日間通して、たくさん遊び、たくさん話し、充実した時間を過ごせた。学生・事務局スタッフの皆さんとも絆を深めることができたし、朝も昼も夜も飽きることなく楽しかった。色々とはっちゃけて迷惑をかけてしまったかもしれないけれど、とてもいい思い出ができた。企画としてこれのために努力してくれた人に感謝したい。来年もまた来ます。

思ったよりも100ばい楽しかった～♪まず、みなとみらいで一番楽しかったのは、くらしの発見！全然クイズが答えられなかったけれど、めっちゃ楽しかった。

山北っ子

ともだちと話ができうれしかったです。川あそびでは、水かけっこをしたり、すいかわりをしてともだちと食べられてとってもうれしかったです。またあえたらうれしいです。

川で水でっぽうで遊んだことが楽しかったです。それに昨日BBQで一人仲よくなったことがうれしかったです。来年もできればその子とまた遊びたいです。

今日と昨日でこらっせをやって友達もできたし、BBQやキャンプファイヤーで川遊びなどもすごく楽しめました。私たち6年生は今年で最後でしたが、最高の2日間になりました。

こらっせユースの感想

今回自分にとって2つの大きな挑戦がありました。1つは、全体のプログラム進行、もう1つは、こらっせ史上初めての学生主体のキャンプファイヤーです。初日に行われたキャンプファイヤーでは、学生スタッフみんな協力して、参加者全員の心を1つにするような思い出に残るものを創り上げられました。2016年度のリフレッシュプログラムは、初参加の学生スタッフも多かったのですが、先輩たちから引き継いだ伝統と新しい風が融合し、素晴らしいリフレッシュプログラムになったのではないかと思います。支援をしてくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

東北の子どもたちを笑顔にさせよう、楽しませよう、と参加したこらっせですが気がついたらいつもこちらが楽しませられ、笑顔になっていました。すごく元気な子どもたちばかりで上手いかないことも多くあり、周りの方々の助けなしでは絶対に成功はしなかったと思います。また子どもたちの笑顔の裏にある家庭の事情などを知り、3日間だけでも一瞬一瞬を楽しみ、そして甘えさせてあげたいと思いました。自分も子どもと触れ合うことで様々なことを学び成長できたと思います。来年、また子どもたちと再会したときに「～ができるようになったよ！」とか「こんな夢ができたよ！」とかいろんなことを聞いたら、そして子どもの成長を間近で見ることができたらいいな、と思っています。

学童保育を訪ねて

●第1期 3月29日(火)～30日(水)

実験①クラゲ



実験②ねるねるねるね



実験③

水に浮かぶ文字



私たちは、1日目に理科実験を行いました。予想以上に良い反応で、とても嬉しかったです。2日目は公園で、学生が提案したレクリエーションが気に入ったのか、繰り返し行い、みんな走り回っていました。



～理科実験紹介～

実験①クラゲ：ティッシュでビニール紐とビニール袋を擦ることで静電気が起こります。ビニール紐をクラゲに見立て、宙に浮かべる実験です。上手く宙に浮かせられると、とても喜んでいました。

実験②ねるねるねるね：重曹、クエン酸、トロメク（増粘多糖類）、マローブルー、水を用いて、酸アルカリの化学反応によって膨らんだり、色が変化します。粉を混ぜて色が変わることによりわーっと歓声をあげて驚いていました。

実験③水に浮かぶ文字：ホワイトボードのペンを用いておはじきのツルツルした面に絵を描きます。ゆっくり水に入れることで書いた文字が水面に浮かびます。最初は中々浮かべられず、苦戦していました。少しヒントを出すと、コツをつかみ、自分の名前、ハートなどを浮かべ楽しんでいました。

●第2期 8月2日(火)



CUPS を練習中
ドロケイで遊んでいます



空の家に着いたときに、「大学生が来たー！」という声が聞こえてきて、学生が来るのを楽しみにしてくれていたのかな？と感じました。CUPSは、最初の食い付きが弱かったのにも関わらず、たくさんの子がハマって楽しんでくれました。

～CUPSとは～

みんなで円になってコップを用いて音楽に合わせて演奏する遊びです。

固定のリズムや隣の人とコップを交換して演奏する一体感に多くの子がはまり、熱中して取り組んでいました！

●第3期 8月16日(火)～17日(水)



1日目は宿題を見たり、オセロやトランプ等で遊びました。



左：天神岬から見た檜葉町 右：ふらっとサロン



～オリジナルゼリーのポイント～
見た目がかわいいデザートを作りたいかったので、ラップで包んで色付きのゴムで止めて、形が丸くなるように工夫しました。

2日目は、ゼリー作りをしました。フルーツの皮剥きに初挑戦の子も、苦戦しながら、とても一生懸命にやってくれました。好きなフルーツを入れて、オリジナルのゼリーを作りました。昼食までに、ゼリーが固まらなかったの、おやつに食べてもらうことにしました。檜葉町見学では、天神岬、ふらっとサロン、Jビレッジを見学させて頂きました。檜葉町内では、7500人いた人たちも、現在600人しかいないというお話を聞き、まだまだ戻ってきている人は少ないんだなと思いました。

●第4期 8月22日(月)～23日(火)



体育館では、学生が考えた“脱線ゲーム”や“天下”のレクリエーションを行いました。



盛り上がった
インディアンポーカー



～脱線ゲームとは～ 鬼を2人決め、それ以外の人は輪になります。鬼は円の中心に入って「脱線、脱線、脱線だ！」と言って、円に切れ目を入れます。鬼が作った切れ目に挟まれた人達は、時計回りに回って空いた場所に戻り、最後に入った2人がまた鬼となります。

体育館では、運動するのがとても楽しみだったようで子どもたちは、終始笑顔でした。レクリエーションも楽しそうに遊んでくれたので良かったです。

2日目には、檜葉遠隔技術開発センターや、天神岬に案内していただきました。天神岬には、展望台や遊具が設置されており、2年前と比べて大きく変わった印象でした。しかし、放射能汚染廃棄物が広範囲に置かれている景色は変わらず、胸が痛かったです。また、檜葉復興計画の一つであるコンパクトタウンのお話など、これからの檜葉について学ばせていただきました。



檜葉遠隔技術
開発センター

神奈川新聞 2016年8月5日

神奈川リフレッシュプログラム収支報告 (2016年4月1日～8月27日現在)

収入の部	
参加費収入	32,000円
寄付金及び賛同金	1,246,688円
その他収入	11,000円
前年度繰越金繰り入れ	422,740円
合計	1,712,428円

支出の部	
宿泊及び食費(丹沢荘・丹沢湖ロッジ)	744,566円
交通費(参加者JR移動ボランティア交通費)	484,553円
プログラム保険料	23,585円
横浜散策など	76,875円
大学生の学童交流・事務局渉外対応	160,860円
運営費(通信、広報、事務等)	204,951円
雑費	17,038円
合計	1,712,428円

賛同人を募集しています!

賛同金(一口) 個人3,000円 団体10,000円
 ご賛同いただける方は、振込用紙に住所・電話番号・メールアドレスの記載をお願い致します。報告書、ニュースレターをお送りします。
 振込先 郵便振替
 口座名称 福島子ども・こらっせ神奈川
 口座番号 00270-7-101155

福島の子どもと交流 スイカ割りなど親睦深め



スイカ割りなどで親睦を深めた参加者
＝山北町中川

たちを支援しようと元教員らが2012年4月に結成。原発事故による同県の避難者を対象とした催しをこれまで横浜市や山北町で開いている。同校との交流は昨年からは行われていた。今回は福島県内外に避難している小学3年生、中学1年生約30人を、三保小学校2、6年生15人が迎えた。3日はキャンプファイアやバーベキューを体験。4日は中川の川岸でスイカ割りなどに挑戦した。榎葉町出身で現在、いわき市に住む小学6年生の女子児童(11)は「好きな歌のことなどを一緒に話した。榎葉町は自然が多くて人が優しいと伝えた。夏の良い思い出になった」と話していた。(山崎 哲)

【山北】東京電力福島第1原発事故の影響で現在も避難生活を送る、福島県榎葉町などの小中学生が3、4の両日、山北町を訪れ、町立三保小学校の子どもたちと交流した。市民団体「福島子ども・こらっせ神奈川」の主催。同団体は福島県の子ども



ボランティア・スタッフ紹介

●こらっせユース

飯田早紀／岩成銀河／梅澤賢之／梅津彩／大町奈津美／影浦あゆみ／駒木根怜／杉野迅／菅田薫／鈴木香瑠
 嶋津智香／曾我部美琴／高田隼矢／内貴杏奈／濱本もも／日高絵里菜／松田優希／藁科早百合

●市民ボランティア

井出優斗／伊藤大介／金澤あゆみ／窪田桃子／清水雅大／松本愛実

●事務局スタッフ

稲垣博美／小山千鶴子／金子文夫／工藤妙子／高橋おいどん／遠野はるひ／中村信子／錦織順子／蜂谷隆
 藤井あや子／山際正道／横山満里奈／若林智子(50音順)



ご協力をいただいた方々

旭区役所地域振興課／WE21 ジャパンこうほく／WE21 ジャパンとつか／WE21 ジャパン藤沢／WE21 ジャパンよこすか／神奈川県教職員組合／神奈川県高等学校教職員組合／神奈川県内広域水道事業団／神奈川県広域水道サービス（株）／かながわボランティア活動推進基金 21／高校年金友の会／自治労神奈川県公営企業労働組合／杉浦幹／関正弥／丹沢湖ロッジ／丹沢荘／千村和司／とれたて山ちゃん／榎葉町教育委員会／榎葉町社会福祉協議会／榎葉町立榎葉中学校／榎葉町立榎葉南北小学校／2010 オリーブの木／東日本大震災・復興支援まつり実行委員会／避難者の会・かながわサポーターズ／福島の子どもたちを守る保養プロジェクト／辺見妙子／三菱みなとみらい技術館／山北町長・湯川裕司／山北町役場／山北町教育委員会／山北町立三保小学校／横浜コスモワールド・泉陽興行（株）／横浜市教職員組合／ランドマークタワー・三菱地所グループ／吉野裕之／和布細工工房「ほのぼの」（五十音順）

賛同団体

WE21 ジャパンいそご／WE21 ジャパンこうほく／WE21 ジャパンさかえ／WE21 ジャパンとつか／WE21 ジャパン藤沢／WE21 ジャパンよこすか／MD 女子会／2010 オリーブの木／神奈川県教職員組合／神奈川県高等学校教職員組合／神奈川県広域水道サービス（株）／国際ソロプチミスト横浜／（株）すこやかコーポレーション／相模原商事（株）／市民自治をめざす神奈川の会／神高教シニア運動／（企）W. C O花もめん／ストッププルトゥウム神奈川連絡会／全水道神奈川県支部／ピッピ・親子サポートネット／避難者の会・かながわサポーターズ／ユニオンヨコスカ／横浜市立港中学校・生徒会厚生委員会／W. C O森のはらっば（五十音順）

8月27日現在 24団体

個人賛同協力者

姉歯友子／荒川淳／安西香取／池田知代子／石下直子／石坂美重子／石塚光行／市川和子／井出都／伊藤大介／稲垣博美／岩瀬恵子／岩田容子／植田美紀子／牛山元美／内田喜代子／内田ハル子／梅田悦子／益塚初枝／大内克美／大治朋子／小笠原三枝子／岡野三郎／奥村美知子／小山千鶴子／鍵山賀子／加藤美恵子／金澤あゆみ／金子文夫／鎌田広将／亀井君枝／木村早苗／桐谷伊佐子／日下景子／工藤妙子／國井哲男／久保新一／倉田謙／黒澤知弘／高力英夫／小海憲子／古座野郁子／児玉勇／児玉王子／五蔭久枝／阪井依子／酒井亮介／坂上みつる／坂上美代子／坂巻フミエ／佐々木紀子／佐々木智子／笹野和恵／佐藤みつ／佐藤公彦／佐藤令子／佐野花子／佐野清文／地代所達也／嶋崎利男／四宮みどり／杉田恵子／杉山佳津江／鈴木江郎／鈴木操／鈴木遊／高梨晃嘉／高野克美／高橋厚子／高橋祥夫／高橋美智子／竹田邦明／竹中麻美／立岡英宏／田沼時代／千野紀美子／塚本鉄男／柘植敬子／露木順一／露木淳子／鉄地河原清美／月野和陽右／土井昌治／遠野はるひ／戸田真由美／中川登志男／長崎羊子／永瀬裕子／永峯文男／中村潔／中村徳子／中村信子／中山雅子／仁上博恵／錦織順子／新川順子／沼里和幸／野口いづみ／箱守初代／蜂谷隆／原ヨシ子／東祐司／府川和代／福島健太郎／福島玲子／藤井あや子／藤島政彦／藤見睦彦／藤本泰成／古河和男／古川文乃／風呂橋修／本間尚子／前田正裕／巻山美和子／松崎茂／松田正／松本明子／真矢公子／真山壮／三輪純子／向田映子／武藤一羊／村田一利／村田隆／村田弘／村田由美子／森幸子／森信壽／森信一／森由美子／森下育代／八島忠義／梁島暁美／藪田悦子／山浦真由美／山際正道／山城恵子／山田勇／山田俊子／山中悦子／山西道子／山根徹也／山本明德／横山満里奈／吉田哲四郎／吉田明（横浜市）／吉田明（町田市）／若林智子／渡辺和子／渡邊廣子／渡辺正子（五十音順）

8月27日現在 152名

おわりに

賛同人・賛同団体のみならず、ご支援・ご協力をしてくださったみなさま、そして後援してくださった行政の方々、とりわけ榎葉町教育委員会、榎葉町社会福祉協議会、山北町、山北町教育委員会のみならず、今年も無事にプログラムを終了することができました。事務局一同、深く感謝いたします。

私たちは「移動教室」の実現というミッションをかねてプログラムをスタートしました。その目標は変わりませんが、プログラムを実施するなかで「交流」は「生きる力」を育むと実感し、「交流」の輪をひろげてきました。

「交流」で紡がれた「こらっせ」の糸は幾重にも重なりつつあります。今年度は募集対象を榎葉のみならず、いわき周辺、首都圏の避難者へと広げ、学年も小3から受け入れることになり、「福島の子どもたちを守る保養プロジェクト」と「避難者の会・かながわサポーターズ」の協賛を得ました。また、榎葉町社会福祉協議会のご好意で若いスタッフを派遣していただき、その方が偶然にもプログラムに継続して参加してくれていた榎葉っ子とつながりがあると知りました。そして、昨年からの地元三保小学校の子どもたちとの交流がスタートし、2年目ということもあり今年よりは交流が深まりました。

3・11から5年が経過し、保養・リフレッシュプログラムに対する世論の関心は薄れつつあり、私たちのようなグループは存続のために様々な問題をかかえています。「こらっせ」も例外ではありません。プログラムを長く継続していくためには、①持続可能な財政②若い担い手の育成③現地の状況を反映したプログラム内容が必要であると考えます。今年度は持続可能な財政を考慮して、新たな宿泊施設の使用、期間の短縮、列車の使用などを試み、課題も浮上しましたが発見もありました。また、大学生のみならず、社会人となったOB・OGも、仕事で忙しいにもかかわらずボランティアとして参加してくれ、若い力に助けられました。

これから実施する5年目の振り返りを経て、「こらっせ」は少しずつ変わっていくと思いますが、賛同してくださっている皆様の支えがあってこそその活動です。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

「福島子ども・こらっせ神奈川」事務局長 遠野はるひ



「神奈川リフレッシュプログラム」2016年報告書

発行日 2016年9月9日

編集・発行 「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL:045-353-9008 FAX:045-353-9998

E-mail:info@korasse-kanagawa.org

表紙 メリノ 制作 事務局